



2021年(令和3年)
2月号(No. 909)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

エベレスト登頂50周年を記念して オンライン講演会を3回開催

国際委員会委員長 和田 薫

昨年の10月から12月にかけて、エベレストをテーマに3回のオンライン講演会を開催した。コロナ禍の下ではあったが、多くの会員・会員外の皆さんに参加していただいた。本稿では開催までの経緯や講演会の概要を、特にドラマチックな第3回の「登山史上最大のミステリー」を中心に、和田委員長に報告してもらった。

一連のオンライン講演会は、創立120周年記念事業委員会の神長幹雄氏をリーダーとする、1970年の日本山岳会エベレスト登山隊の登頂50周年記念プロジェクトの一環として企画し、実施した。どの回も第一線のゲストに登壇していただいたが、会員・会員外を問わず毎回150名程度の方がオンラインで参加してくれた。

第1回(10月7日)「みんなで登ろうエベレスト」バーチャル登山と公募隊

ゲスト…近藤謙司氏(アドベンチャーガイズ代表、国際山岳ガイド)、川崎久美子氏(2011年登頂者)

第1回は、自ら公募隊を企画して率いてきて、何度も登頂している近藤さんに、写真を交えてバー

目次

エベレスト登頂50周年を記念して オンライン講演会を3回開催	1
エベレスト・オンライン講演会に参加して	4
初めての冬山フェスタを開催	5
JACの仲間とType 2 funの山へ	6
連載 島の山旅への誘い②	7
地域発「山の日」レポート⑤広島支部	10
Climbing&Medicine	86
活動報告 科学委員会	12
新入会員	12
支部だより	13
北海道支部/岐阜支部/広島支部	
図書紹介	16
会務報告	18
ルーム日誌	18
会員異動	19
INFORMATION	19
編集後記	19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
★新型コロナウイルス感染防止対応のため、当分の間、取扱時間を短縮します。平日13時～20時

スキャンプからエベレスト登頂まで、バーチャル・ガイドをしていただいた。2011年に、会社員を続けながら公募隊に参加し登頂した川崎さんも特別ゲストとして登場し、参加者との質疑応答で盛り上がった。

第2回(11月5日)「エベレスト氣候変動」ヒマラヤ気象予報最前線と氷河の行方

ゲスト…飯田肇氏(富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長、日本雪氷学会会員)、猪熊隆之氏(ヤマテン代表、気象予報士、近藤謙司氏(同会、同右)

第2回では、1980年代に登山隊で気象予報を担当した飯田氏と、気象予報の最先端を行く猪熊氏の豪華な対談が実現し、この間

の山岳気象予報の変遷を聞くことができた。また、国内外の氷河調査の第一人者でもある飯田氏は、後退するヒマラヤの氷河についてもお話しくださった。

以上、いずれの回もそれぞれ日本山岳会会員に講演していただき、まさにJACならではのイベントになったと思う。

第3回(12月5日)「登山史上最大のミステリーマロリーとアークインを捜して」当時の発見メンバーが語る執念の遺体捜索

ゲスト…ジェイク・ノートン氏(クライマー、映像作家、1999年マロリー捜索隊メンバー、米国在住)、通訳…笹生博夫氏(外国特派員協会会員、通訳案内士)

第3回は、海外からのゲストを

招いた講演会に挑戦し、オンラインのメリットを最大限に活かすことができた。思いのほか大きな反響をいただき、今もジョージ・マロリーと彼の遭難にまつわる謎が多くの人々の心をとらえていることを実感することとなった。

1924年の冒険と残された謎

英国の登山家ジョージ・マロリーは、エベレスト登頂に3回挑戦し、「そこに山があるから」という言葉を残したこともよく知られている。トレッドマークのようなツイード・ジャケットでエベレストに登る姿に、今も多くのクライマーが畏敬の念を抱いているはずだ。1924年6月、エベレスト登頂を目指したマロリーとアンドリユー・アーヴィンは、頂上直下で仲間に登攀(または下山)途中の姿を目撃されたのを最後に、姿を消した。手掛かりは、仲間の証言と残された酸素器具のみ。いったい彼らに何が起きたのか。果たしてふたりは登頂したのか。もし彼らが登頂していたとすれば、1953年のエドモンド・ヒラリーとテンジン・ノルゲイによる登頂よりも、大分早かったことになる。

それから75年後の1999年に、アメリカ人を中心とする捜索隊によつてマロリーの遺体が発見された。同時に遺品や日記、家族に宛てた手紙など、多くの手掛かりも見つかり、究明が一気に進んだ。しかし、肝心のふたりの足取りについては、いまだ確証を得られないまま現在に至っている。アーヴィンの遺体も見つかっていない。1世紀近くたった今も、この残された謎は多くの人々を惹き付けており、2019年春には、2つの遠征隊(ナショナル・ジオグラフィック隊と米国デイスカバリー・チャンネル隊)がエベレストに赴き、ドローンなどを活用し、さらなる捜索と調査を進めている。

なお、遺体発見までの一連の話については、ヨッヘン・ヘムレブほか著・海津正彦訳『そして謎は残った―伝説の登山家マロリー発見記』(文藝春秋刊、原題: Ghosts of Everest)に詳しい。

オンライン講演会実現に向けて

さて、私もこの壮大なミステリーに魅せられたひとりであり、今回の講演会シリーズにぜひ取り上げたいと考えていた。ハードルは



ジェイク・ノートン氏

高いが、なんとしても遺体捜索の当事者をゲストに招いて、話を聞いてみたかった。

考えた末、ダメ元でアメリカン・アルパイン・ジャーナルやヒマラヤン・データベースで働く海外の友人に相談してみることにした。世界中のクライマーに広いコネクションを持つ彼なら、何かアドバイスをくれるかもしれない、と期待してのことだ。ありがたいことに、彼はすぐに、前述の『そして謎は残った』の著者ヨッヘン・ヘムレブ氏につないでくれた。同書を読んだ人ならご存じのとおり、ヘムレブ氏はクライマーであり歴史家でもあり、初登頂の真相に近付こうと取り憑かれたように研究を重ねた人物で、99年のマロリーの遺体発見を実現させた立役者である。そして、私の希望を聞いたヘム



『そして謎は残った』書影

レブ氏が紹介してくれたのが今回の講演者、ジェイク・ノートン氏だったのである。マロリーの遺体捜索隊のメンバーで、かつ発見にも立ち会ったノートン氏は、これまで3回エベレストに登頂(北東稜、南東稜、西稜)しただけでなく、4回も謎を解くために現地を訪れているという。現在はクライマーであり、写真家や映像作家として作品を発表し、国連マウンテン・パートナーシップのアンバサダーとして、世界中で講演活動もしている。これ以上の適任者がいるだろうか。すがるような思いで連絡を取ってみたところ、見ず知らずの私のお願いを快く引き受けてくれた。熱意が通じたようで、とてもうれしかった。

次なるハードルは通訳だ。海外ゲストの講演は、通訳によつて成否が左右されると言っても過言ではない。そもそも、今回のテーママ



第3回の様子。通訳の笹生氏、挨拶した貫田氏、講演者のノートン氏、筆者（右上から時計回りに）

に通じた人が都合良くいるのだろうか。

そんななか、JACの先輩方に笹生博夫氏をご紹介いただき、ご本人も快諾してくださった。氏は英国BBCの番組コーディネーターなどを手掛けるかたわら、これ

までダグ・スコットやクリス・ボニントン、ラインホルト・メスナーの通訳も手掛けた経歴の持ち主である。こうしてご縁と幸運が重なり、実現に漕着けることができた。

「ふたりの登頂を私は信じる」

ノートン氏と笹生氏とのZoomでの打ち合わせとリハーサルを重ね、当日を迎えた。ノートン氏が住む米国コロラド州との時差（16時間）を考慮し、土曜日の午前10時からの開催となった。

開会に当たり、登山家の貫田宗男氏に視聴者を代表して挨拶をいただいた。氏は遺体捜索隊のリーダーと面識があり、前出のヘムレブ氏ともメールでやり取りがあるという。次いでノートン氏の自己紹介と続き、エベレストが1856年に発見されて以降の歴史やマロリーの人となり、1924年の遠征につい

てなどが、分かりやすくテンポ良く説明されていく。笹生氏の簡潔かつ的確に言葉を選んだ通訳が、視聴者の理解を補ってくれていた。

そして、話は核心部分、すなわち24年の6月8日以降の登攀に移っていった。氏自らが北東稜を登攀したときに撮影した臨場感あふれる写真とともに、マロリーとアーヴィンが登ったルートをたどっていく。第4キャンプからイエロー・バンドを通過し、第1ステップ、マッシュルーム・ロックへ……。ここはマロリーだったら容易に通過できたはずだ」「おそらく、ここでの今後の気象条件を考慮して進退を判断したであろう」など、ノートン氏が、推測を交えながら解説を進めていく。私はどんどん講演に引き込まれていった。

また、遺体発見当時のビデオも公開された。最初はアーヴィンであろうかと思っていた白骨が、洋服のタグからマロリーであると分かっていたときの、メンバーの興奮が伝わってくる動画であった。そして、聖書の一節を唱えて死者を弔う一同の真摯な姿を見て、彼らにとってマロリーは単なる興味の対象ではなく、尊敬するクライマーだからこそ、なんとしても見つけたかったのだという思いが強く伝わってきた。

そして、プレゼンテーションの最後に「ふたりは登頂したのだと私は信じている」とノートン氏が力強く言い切るのを聞いたとき、私は鳥肌が立ち、涙が出そうになった。実際に同じルートを登った同氏だからこそその説得力があった。こうして1時間半の講演が終わった。

*

講演会終了後、大変うれしいことに「感銘を受けた」「長年の謎が、当事者から話を聞けて分かったような気がする」など、多くの感想を頂戴した。

コロナ禍で日常生活は大きく変わり、登山どころか外出も思うようにできなくなり、不自由な日々が続いている。一方で、今回のオンライン講演会は、山を通じて知り合った先輩や友人の輪とご縁に助けられて開催に至った。まさに山がつくってくれた機会に、心から感謝している。

講演者の皆様、お力添えくださった皆様に心からの感謝を申し上げます。本稿を閉じたいと思う。

ONLINE LECTURE

エベレスト・オンライン講演会に参加して

芳賀淳子

英国山岳会(AC)による戦前の、長年にわたるエベレスト遠征隊の中でも、1924年隊はドラマティックであり、記録的にも実績を上げた隊として印象深い。マロリーとアーヴィンのふたりの黒い点のような姿を下方から見ていたオデールが、雲の中にふたりを見失って以後、彼らが頂上に達したか否かは、いまだ「永遠の謎」として残った。今回のオンライン講演会では、アメリカの遺体捜索隊の記録

と映像が直接、捜索隊員の言葉で解説されたことで、実に迫力があつた。

その24年隊についてオンラインで話が進む中、次のようなエピソードが私の頭をよぎった。

私の家の壁には「ロンブクからのエベレスト」という複製プリントの絵が掛けられている。これは24年隊の隊員であるT・H・ソマヴェルの作品である。彼は優秀な登山家で、英国湖水地方の画家であり音楽家でもあった。遠征中、時間があれば目指すエベレストの山容だけでなく、チベットでのキャンプ生活のスケッチにも余念がなかったという。

彼は遠征終了後、インドの貧困に心を寄せて、医療ミッシヨナリとして40年間インドに滞在して、生涯を捧げた人物であつた。その彼が戦後、老齢になって英国に帰国途上、日本に立ち寄り、松方三郎氏らと富士山やほかの山々を登った。

そして、日本山岳会のルームで

24年隊の記録フィルムを見せたときには、腰を抜かすほど驚き、喜んだという。40年にわたるインド生活で、自分の登場する8mmフィルムを見る機会がなかったというのだ(『山岳』1963年11ページ、同69年35ページ参照)。

また、24年隊隊員でマロリーの最後の目撃者オデールも、80年に西堀会長の招きで来日し、このフィルムを見て驚愕し、大喜びした。戦中の空襲でロンドンのACはそのフィルムを焼失したそうだ。それは直ちにコピーされて、ACへ贈られた。この記録フィルムは永年、インドで生活していた父(三田幸夫)が現地で手に入れて日本に持ち帰り、日本山岳会に寄贈したものだった(『山岳』2019年99ページ参照)。

それに対してのお礼として、父宛に送られて来たのが「ロンブクからのエベレスト」であると、私も父から聞いていた。そして、日常、この絵を見るのが好きだったし、絵の中の情景は私の頭の中に叩き込まれていた。

2007年、スケッチクラブの有志とチョモランマ・ベースキャンプへの旅が企画された。チベッ

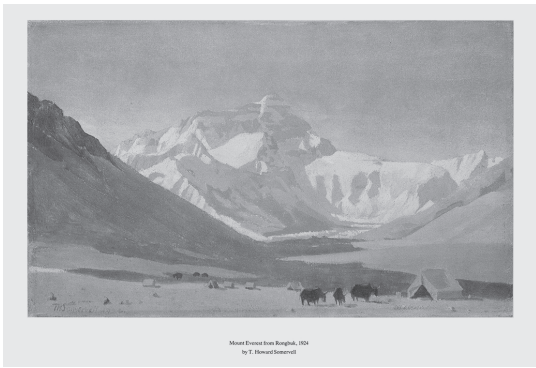
トのラサから目的地にたどり着くまで、長い時間を掛けて舗装された街道を、ランドクルーザーに乗ってひた走った。戦前の英国隊が土埃にまみれながら、ヤクに荷物を載せ、ポーターとともに遠路を歩いたことに思いを馳せれば、「なぜ山に登るのか」という質問に対して、「それは山がそこにあるからだ」という、マロリーの単純にして明解な回答が何度も頭の中を駆け巡った。

長い道のりを経て向き合った、ロンブク氷河の上にそそり立つエベレストは、身動きを許さず、たじろぐほどの偉大さ、すばらしさであつた。その北面が、現実目の前に毅然とした姿で立っていた。一同、声も出さずスケッチに取り掛かり、数枚を仕上げた。各自、一生のうちでいちばん心に残ったスケッチを抱きしめて、満足したことを思い出す。

*

オンライン講演会に参加して、人生の中の大切な自分の思い出が、数々の登山史上の情景と重なるのは、思ってもみないことであつた。幸運である。感謝である。

(アルパインスケッチクラブ会員)



ロンブクからのエベレスト(T・H・ソマヴェル画)

REPORT

初めての冬山フェスタを開催

東海支部 今津英一朗

東海地区をテリトリーとする経済紙に、中部経済新聞社(本社・名古屋市。以下「中経」)がある。この中経の主催で毎年6月に開催しているイベントが「夏山フェスタ」である。山岳関係企業や山小屋、地方自治体などの展示ブースでの出展、講演と各種セミナーの開催が主な内容で、毎年、大勢の来場者でにぎわう。この夏山フェスタに、東海支部は実行委員会の一員として加わり、年間の支部事業の一環として関わり合ってきた。

この夏山フェスタだが、昨年(第8回)はコロナ禍で中止を余儀なくされた。その代わりという意味合いもあるが、以前から実施を検討していた冬山をターゲットにしたイベントとして、昨年12月26日(土)に「冬山フェスタ」が開催された。コロナ禍が収まっていらない中、直前までその開催が危惧された。開催に当たっては、新型コロナ感染対策に万全の措置が講じられたことは言うまでもない。場所は夏山フェスタと同じ名駅の「ウイン

クあいち」で、規模は、最初の試みであることとコロナ禍への対応を踏まえ、夏山フェスタの2日開催から1日とし、会場も5分の1程度に縮小して開催された。

支部は冬山相談コーナーを担当

東海支部は「冬山なんでも相談」コーナーを担当。冬山登山に関する来場者からの様々な相談や質問に的確なアドバイスをする役目を担った。担当者は、支部友委員会の委員が交代で対応。併せて冬山体験登山の参加希望者も募った。この体験山行だが、その後発出された緊急事態宣言により、現在ではその実施が危ぶまれているが、東海支部では、こうしたイベントで体験登山の応募者を募集すること

が、新しい支部員の入会を促進させる窓口の一つになっている。開催後の中経のアンケートによれば、来場者の40%は夏山フェスタに一度も来場したことがなく、冬山経験もそれなりにあつて、特に夏山は相当登り込んでいる人が多いとのことであつた。それだけに冬山に関心を持っている参加者が多いことを表わしていて、相談内容も冬山の技術相談、冬用天幕の張り方、なかには雪崩ビーコンの体験希望もあつたりして、多岐にわたっている。また、今行きたい冬山の一番人気は八ヶ岳連峰であつたが、人気の高い理由が良く分かる。その他、今回のアンケート結果で、90%を超す参加者から「大変良かった」もしくは「良かった」との高い評価を得た。

セミナーは冬山登山基礎講座

今回の目玉は、「冬山登山基礎講座」と銘打ったセミナーである。朝10時から夕方6時までの7講座には、その道のベテラン講師陣がそれぞれ熱心に講座を受け持った。コロナ禍対応の一つとして、密を避ける目的で受講を事前予約制にし、一部の講座は有料とした。なかには最前列に陣取り、全7講座を聴講した参加者も幾人かいて、どの講座も人気が高かつた。

講師陣は、夏山フェスタや東海支部と馴染みの深い講師がそろい、支部員との交流もこの催しの楽しみの一つとなっている。いつも気



支部員が交代で対応した「冬山なんでも相談」コーナー

象セミナーを担当してくれている「ペンギンおじさん」こと、山岳防災気象予報士の大矢康裕さん(ウエザーフロンティア東海)、国際山岳ガイドで東海支部員の増井行照さん、同じく国際山岳ガイドの近藤謙司さん、JACの常務理事で山と溪谷社の萩原浩司さんなどである。

主催者の中経にとって今回の冬山フェスタは初めての試みであつたが、予想を超える高い評価を得られたことから、早々と次の開催を決めている。そうすると夏山フェスタ、冬山フェスタの年2回開催となり、東海支部でもそれなりの対応を迫られよう。

FOREIGN MEMBER

JACの仲間ともつふType 2 funの山へ

ニコラス・ヘラー

日本山岳会には多くの会員がいますが、海外からやって来た会員もいます。英語のホームページがあるお陰か、日本の山や過去の海外遠征についての海外からの問い合わせも増えていきます。今回は、最近入会した米国人会員を紹介します(編集部)。

*

2016年に米国オレゴン州ポートランドにあるMAZAMAという山岳団体に所属しました。これ



米国ワシントン州のSilver Star Mountain山頂にて



2019年6月、焼岳頂上にてJACの仲間たちと

が私の「山岳中毒」の始まりでした。この団体の活動を通じて、山にのめり込んだ私にとって、日本に来る前に日本の山岳団体を探しておくことは重要だと考えていました。そこで山や岩稜に対する情熱を共有できる仲間を探したり、講習を受ける機会が得られればと思っていました。そんななか、日本山岳会を見つけたのです。英語のホームページがあったので、英語でメールを送り、(当時、国際委員会委

員長だった)中山茂樹さんに連絡を取りました。

その後、私は日本に住み始め、初めてJACのミーティング(バックカントリークラブの例会)に参加しました。日本語を話せないのが恥をかくのでは、と参加する前は心配していましたが……、JACのメンバーは歓迎してくれて、むしろ私に自分たちの会や活動内容を熱心に紹介してくれました。私が新しく住むことになった国で初めに交流した人たちで、そして友だちになった日本人でした。

日本で過ごしたこの2年間で、私はJACの人たちと小槍に登ったり、ウェストン祭に参加して徳本峠を越え、その翌日、焼岳に登りました。これらの山行を通じて日本とアメリカの山での技術の違いを学ぶことができて、感謝しています。また、自分が持っている技術を日本の友人に教えることもできました。

特に私のお気に入りの思い出は、古野淳さん(現・会長)たちとともに登った2日間で、2019年9月の小槍登攀です。日本に来る前から私は槍ヶ岳に憧れていて、「Spear(＝槍)」の上から下界を見

下ろす自分の姿を夢見ていました。そして、その夢が叶ったのです。最高の(top-notch)ツアーでした。山行自体は1泊2日でハードでしたが、どの瞬間も満喫しました。

アメリカでは、こういう経験を「type 2 fun」(注: type 1 funを単純な楽しさとする)type 2 funは、その間はつらく苦しくても、その後に楽しさがやって来るもの。登山やスポーツでよく使われる表現と呼んでいて、私はこのtype 2 funが大好きです。今回の小槍登攀はまさに私のお気に入りの経験となりました。連れて行ってくださった古野さんに、心から感謝しています。

新型コロナウイルスの感染拡大で、私が現在住んでいる三浦半島から遠く離れて行動することができませんが、この困難な経験を皆さんとともに乗り越え、友人たちと山に行ける日が来ることを願っています。私はJACの仲間とともに「type 2 fun」の機会を得ることを楽しみにしていますし、この美しい日本という国を見たいと思っています。

Gambatte.

(国際委員会委員 沢・和田 薫)

連載■島の山旅への誘い②

琉球諸島

——沖繩本島・与那覇岳、石垣島・於茂登岳、西表島・古見岳など

琉球諸島の山概説

琉球諸島は日本列島の南端部分にあって、南北約400km、東西約1000kmの広大な海域に点在する約160の島嶼から構成され、約145万の人々が暮らしている。山々は季節風や黒潮の影響により年間を通して雨が多いため、イタジイなどの常緑広葉樹やシダ・ヘゴを中心とした亜熱帯性の森林に覆われている。森の生態系は、太



沖繩本島・安和岳の登山道。ヤブこぎに近い状態

銘苅盛暁

古に大陸との分離結合を繰り返したことと、親潮や渡り鳥などによつて運ばれたことにより多様で固有性が高く、多くの絶滅危惧種の生息地となっている。その中でも沖繩本島北部および西表島は、ユネスコ世界自然遺産の候補地となっている。

気候は年間平均気温23℃、夏季30℃前後、冬季15℃前後と年間を通して温暖であるほか、昼夜の気温差は、いずれの季節も5℃程度に留まる。雨季は2月のうりずん（潤い初め）の季節と、5月のGW前後から始まる梅雨である。6～9月の夏季は台風襲来リスクが高いほか、日差しは肌に痛みを感じるほどの強さであるため、帽子の着用と、日焼け止めや水分補給は必須である。

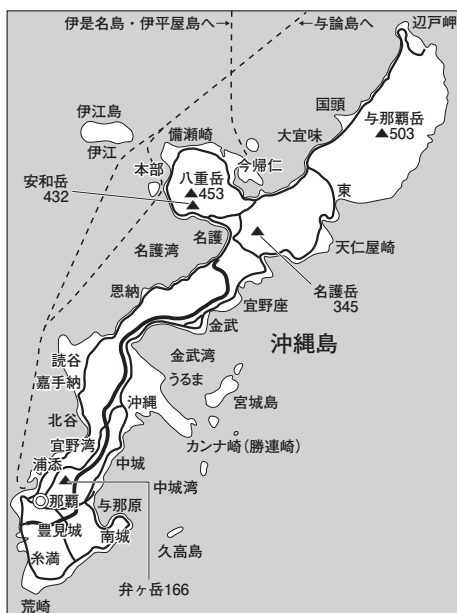
島々での登山は、ヤブこぎに近い視界が利かず、足元の琉球石灰岩は雨天後には特に滑りやすく、高温多湿の気候は体力をじわ

じわと奪う。特に猛毒を持つハブや昆虫には注意と対策が必要となるが、多様な豊かで固有性の高い動植物を観察できることは、大きな魅力である。また、コバルトブルーの海を俯瞰する絶景が眼前に広がる山頂からの開放感、それまでの緊張感や疲れを吹き飛ばす魔法の力を持つ。

主な山の登山ガイド

▲沖繩本島・与那覇岳

やんばる国立公園にある沖繩本島の最高峰・与那覇岳（503m）は、ノグチゲラやヤンバルクイナなどの希少動物が生息しているほか、日本一大きいドングリが実るオキナワウラジロガシなどが繁茂する。頂上は樹林に覆われているため眺望は利かないが、道中では数mの大きさになるヒカゲヘゴやシダなどが見られ、ジュラシックパークさながらの雰囲気である。また、山中には琉球藍の抽出に使



われた壺がひっそりと残されている。麓にある比地大滝（落差25・7m）遊歩道においては、コマドリがすぐ近くまで近寄ってきたりすることもあり、森林の深さ、美しさを満喫できる（歩行時間…2時間）。

▲沖繩本島・安和岳、三角山、古巣岳

安和岳（432m）は沖繩本島の北部、本部半島の付け根となる名護市にある山だ。周辺の山々を含めて自然保護区に指定され、地元では「本部アルプス」と呼ばれている。稜線や頂上付近からは日本で唯一、円錐カルスト地形が見渡せる。山、集落、海が近いため、空を飛んでいるような感覚に陥る。麓では取り立てのシークワサー・

ジュース、車で少し足を延ばすと、美肌効果抜群のアセロラ・ジュースを堪能できる(歩行時間…5時間)。

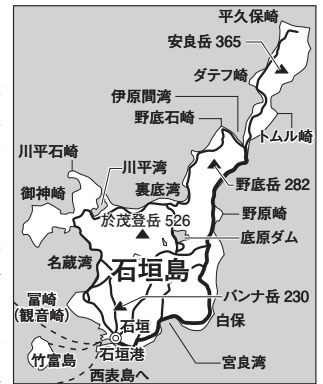
▲沖繩本島・名護岳

名護岳(345m)は、沖縄本島の北部の名護市に位置する。頂上からの展望は、東シナ海から太平洋まで開けている。ハート岩で有名な古宇利島も望むことができる。山腹に沖縄県立名護青少年の家と名護城公園が立地し、遊歩道が設けられているため、家族連れも登りやすい。麓では毎年1月下旬に桜祭りが開催され、県内外から花見客が訪れる。祭では桜を眺めつつ屋台料理を楽しむほか、懐メロ歌謡ショーに飛び入り参加も可能である。

▲沖繩本島・弁ヶ岳

釣鐘状の花弁を持つ寒緋桜となる。本島北部地区で先に開花し、順次、沖縄の桜前線は那覇へと南下していく(歩行時間：3時間)。

弁ヶ岳(166m)は首里城の東方1kmにあり、風水学的には城の背後を守る「玄武」とされている。王国時代は航海の目標となったほか、王家の祭祀場となった。現在は峰全体が御神体となっており、と



きおり参道入り口に参拝者が訪れる。山を取り巻くように遊歩道が整備されており、山中には銃弾の跡が生々しく残るトーチカが残っている。山頂には一等三角点と拝所や石碑があるほか、那覇市内や首里城を見下ろす景色が望める。ヤブツバキ、ガジュマル、アカギなどの沖縄固有の草木を観察しながら、歴史と山岳信仰の残り香を感じる、首里城観光の寄り道ルートである(歩行時間：1時間)。

▲石垣島・於茂登岳

沖縄県最高峰の於茂登岳（おもと 6 m）は、沖縄本島から南西に410 km 離れている石垣島にある山で、西表^表石垣国立公園にある。近くには椶^表海於茂登岳（477 m）、ぶざま岳、野底岳などが連なっている。山中には大木となったヘゴ、天然記念物のセマルハコガメおよびカヌムリワシや、野生化した孔雀に



イタジイ (石垣島・於茂登岳で)

遭遇することがある。山頂からは石垣島と西表島の間に広がる日本国内最大のサンゴ礁・石西礁湖（せきさいしうこ）や、川平湾（かわへい）などのコバルトブルーの海が望める（歩行時間…2時間）。

▲石垣島・野底岳

公益財団法人・日本離島センターが選定した「しま山100選」に選ばれている野底岳(282m)は石垣島の北部に位置し、野底マーペーの別名を持つ。登山道は地元登山会により整備されている。山頂には、「野底マーペー」という娘

▲西表島・古見岳

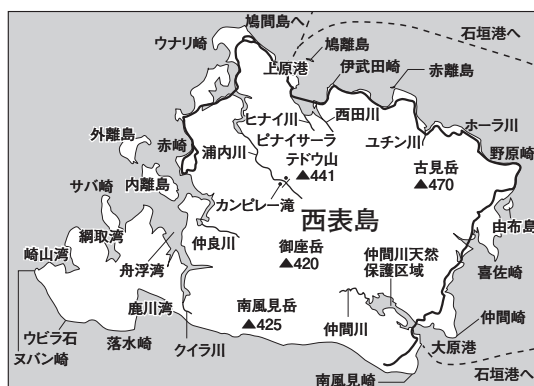
▲西表島・古見岳
沖縄本島から南西に430km離



石垣島・野底岳山頂からの展望。左下の岩が野底マーペー

れている西表島にある古見岳（470m）は、西表石垣国立公園にある。山頂からは麓の集落やコバルトブルーの海、石垣島を含む周辺離島を見渡せる。地元では神が降り立つ山として信仰の対象となっている。

森の中に続く林道と川の徒渉を繰り返しながら登っていくため、登山靴と沢靴の両方を用意すること。また、蛭が多いことから、ウイターや絆創膏などの用意も忘れずにされたい。西表島全体が国立公園に指定されているほか、遭難が多発していることから、ガイドを帯同することが望ましい（歩行時間…6時間30分）。



アクセスとモデルプラン

沖縄本島と石垣島への入域は、空路となる。西表島は、自然保護や経済合理性の観点から空港は設置されていないため海路となる。

羽田から那覇までは2時間強、那覇から石垣島までは約1時間、さらに石垣島から西表島までは1時間を要する。

沖縄本島の鉄道は、那覇市内にモノレール1路線のみ。バス路線は、那覇市内および近郊路線は充実しているが、過疎地への往来は不便だ。いずれの島についても、島内の移動はレンタカーの利用をお



思わず目が合ったキノポリトカゲ(石垣島・於茂登岳で)

山旅のメモ

勧めする。

次に私がお薦めする、山旅と観光を兼ねたモデルプランを紹介しよう。

△1日目…各地を出発して那覇空港着。午後から首里城を観光し、弁ヶ岳をハイキング。那覇泊。△2日目…安和岳・三角山・古巣岳をハイキング。沖縄本島北部泊。△3日目…石垣島へ移動。於茂登岳および野底岳をハイキング。石垣島泊。△4日目…西表島へ移動。古見岳をトレッキング。西表島泊。△5日目…石垣島へ移動し、新石垣空港から帰路につく。

▲登山道・山小屋・トイレ

沖縄の山々に山小屋やトイレはない。登山道は亜熱帯のため草木の成長が整備を上回り、ヤブこぎが多くなる。ほとんどのコースタムは、半日程度となる。

▲ハブ

酵素系の猛毒を持っているハブは、4種類いる。夜行性で、湿気が高く暗い所に住み着く。ネズミやカエルを追って田畑や人家周辺にも多い。視力はほとんどなく、音に敏感に反応し逃げる。追い込まれると体温を頼りに攻撃する。

入山の際は素肌の露出を避け、歩行する先を叩くポールなどを持参することを忘れずに。咬まれた場合は、走ると毒の回りが早くなるため、周囲に向かって救助を呼ぶなりして、慌てず、かつ速やかに病院で血清治療を受けること。

▲温泉

沖縄には湯船に浸かる文化はない。諸説あるが、「気候が高温多湿であるから、1日に複数回シャワーを浴びることが合理的」という。銭湯は「中乃湯」(沖縄市)が唯一。当地で温泉に入るとなると、女子力と入浴料高めの「リゾートスパ」となる。

▲その他観光情報

主な観光地は、首里城や美ら海水族館のほか、戦跡巡りがある。また、海では海水浴、ダイビング、シーカヤック、パラセーリングなどのマリンスポーツが主となる。また、ザトウクジラの求愛が間近に見られるホエール・ウォッチングや、ウミガメの産卵も楽しめる。

*

一昨年までの沖縄は、那覇空港の滑走路増設、航空会社の参入や航路開設が続き、気軽な旅先の一つとなっていた。ところが、新型コロナウイルス感染症の影響により足元の観光需要は大きく減退し、県内各地で進行していた開発は軒並み中断している。一方で県内の交通渋滞は緩和され、地元の家連れにとっては、3密を避ける形で山や海の自然に親しむ機会が増えている。

コロナ禍の終息後は、全国の皆さんに、コバルトブルーの海を眺めながら南国気分を味わい、癒しの時間を堪能しつつ、少しでも足を延ばし、亜熱帯性の森林や山岳信仰など文化の残り香を感じていただきたい。

(東京多摩支部会員、那覇市在住)

地域発「山の日」レポート⑤広島支部

ひろしま発で「山の日」に想うこと

広島支部 前垣壽男

1997年11月1日、日本山岳会広島支部が創立されました。地元、広島市西条町の酒蔵で生まれた私は、子どものころは近くの山、川で日が暮れるまで遊び、学生時代は法政大学ワンダーフォーゲル部に所属して、全国各地の山はもとよりロードを広く歩いて心身ともに鍛えられました。その縁もあってか、創立時に入会を勧められました。卒業後、久々に岳友とも会えて、新たな山への想いも湧いてきたものです。

そのころ、西条酒造組合（現・西条酒造協会）で、「酒屋として社会貢献できることが、何かないだろうか」との気運が高まり、広島大学に良い先生がいるとのことで早々に訪問しました。一方、人気キャラクター、ピーターラビットのグッズの売り上げの一部が世界中から集まり、イギリスの湖水地方の環境を守る運動資金になっているという話を聞き、感じるところがありました。

会社の杜氏が「最近、都市化が

進んで、なんとなく地下水位が下がっているのではないか」と語っていた言葉を思い出し、岳友や酒造会社の人たちと話を進めるうちに、酒蔵群の地下水源である龍王山の森の整備をしては、との案が生まれました。ボランティア事業には資金が必要です。各酒蔵の出荷量に応じて、1.8ℓ当たり1円の資金を拠出していただくように理解を求めて歩き、「20世紀に壊した自然は21世紀に直す!」との想いから、官民一体で「西条・山と水的环境機構」を立ち上げることとなったのです。

組織編成や事業予算などの計画書作成に入ったところ、2002年2月の「第7回森林と市民を結ぶ全国集い」の開催が広島県に決定した、との情報が入りました。それを我が機構が主催することを当面の目標として、99年11月に組織を設立。翌年11月4日、故木村尚三郎・東大名誉教授に来ていただき、「山づくり、水づくり、酒づくり」をテーマに講演会を開催した



堂本暁子さん(前千葉県知事)を迎えての10周年記念講演会

のがキックオフになりました。

2002年2月9日～11日の2泊3日、全国各地から1500人が集まり、広島県を中心に集いを開催できました。閉会式の決議文として「各地で山の日を作ろう」と提唱し、盛会裏に終了。決議した責任から広島県森林保全課とも協議の上、その年の6月1日、県民1500人の参加の下、龍王山で「第1回ひろしま山の日県民集い」を開催しました。また、この年が国際山岳年に当たることから、東京から来てくれた江本嘉伸先輩に講話をしていただいたことも大変有意義でした。

この集いは各市町の持ち回りで、



山と水のグラウンドワークでの整備活動(龍王山にて)

毎年、メイン会場を変えて地元民や企業などの理解と協力をいただき、広く官民一体の実行委員会組織を基本として開催しています。今まで19市町で開催し、前年度はサテライト方式で行ないました。この6月第1日曜日の催しの参加者は、近年は1万人を超えています。昨年は残念ながらコロナ禍で中止となってしまいましたが、本年は予定地だった府中市をメイン会場に開催の予定です。

私は支部会員として、JAC自然保護委員会全国集いに毎年出席しており、JACが初期の時代に、数々の社会貢献事業を展開したという業績を知りました。全国山の

日制定協議会が設立されてからは、尾上昇元会長、成川隆顕氏、故磯野剛太氏、また、東海、岐阜、京都、関西、四国、山陰など各支部の協議会設立に関わってこられた方々とのご縁もできました。全国大会が栃木県塩谷町で開催されたときの故船村徹先生との交流や、山の日制定には谷垣禎一代議士が会長になられるなど、多くの方々と接することができたことも、すばらしい体験でした。

日本の国土の7割は山です。47都道府県それぞれがすばらしい自然に恵まれ、そこに山があります。「山の日」は決して登山者だけのものではないと考えます。皆様の方で「山の日運動」を広げて次の世代を想い、地元の企業団体や岳友など、そして行政と手を取り合って、私たちの実行委員会を越していただきたいものと思っております。

今年も地元の小中学校で、西条・山と水の環境機構のことや、「山へ入りましょう」との卓話をさせていただきます。美しい里山の再生を想いつつ、山を語ろうではありませんか。

(ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会会長)

Climbing&Medicine・86

山行中の足の^つ攣りへの対処

医療委員会 野口いづみ

足(脚)の攣りは山行中で遭遇することの多いトラブルで、中高年者と初心者に多い。初心者はまだ筋肉が付いていないため、中高年者は筋肉が衰えたために起こりやすい。主な原因は脚の筋肉疲労と冷え。部位はふくらはぎが多いが、太ももや足底にも起こる。

予防法は、登山前には脚にテーピングをする、きつ過ぎるサポーターを使わない、体、特に脚を冷やさないようにする、適宜休憩を取るなど。登山中は休憩時間にストレッチをしてふくらはぎや太ももを伸ばすようにする。クエン酸とアミノ酸は乳酸の生成を抑制し、筋肉疲労に予防効果があるので有効だ。クエン酸は酸っぱいので、甘いスポーツドリンクなどの飲料に加えると良い。塩分不足も原因として考えられているので、スポーツドリンク、味噌汁、梅干し、塩昆布などで塩分を補給する。長期的には脚筋力の強化を心掛ける。

攣った場合は、ふくらはぎなら軽く足先を押し曲げて、ふくらはぎを伸ばす。軽く指圧をしたり、優しくマッサージをする。カイロを当てて温めることも効果的。芍薬甘草湯(しゃくやくかんぞうとう/漢方薬68番)とゴムベルトも有効で、携行してほしいアイテムだ。

芍薬甘草湯は攣りの治療薬として知られるようになった。骨格筋とともに、腹痛など内臓筋の痙攣に効果がある稀有な薬だ。芍薬に含まれるペオニフロリンはカルシウムイオンの細胞内流入を抑制し、甘草に含まれるグリチルリチン酸はカ

リウムイオンの流出を促進し、この2つのブレンド効果により筋弛緩効果を発現すると考えられている。足が攣った場合に内服すると5～10分程度で効果が得られる。漢方薬だが即

効性があり、数日前から飲む必要はない。出発前に予防的に内服しても良い。ただし、常用内服によって血圧上昇、むくみなどを起こす場合があるので、高齢者は1日1程度にし、常用する場合は医師に相談すること。

ゴムベルトを巻くことも、脚の攣りや脚疲労に効果的だ。作用として、脚筋のサポート効果、血流改善効果などが推測されている。ふくらはぎの攣りでは、ふくらはぎに巻くとはどけやすいので、膝に巻くこともある。膝に巻くと膝痛にも効果がある。膝下から巻いて、膝後ろを斜上に巻き上げ、膝上を巻いてから、膝後ろを斜下へ、ベルトがクロスするように巻いて膝下に戻す。膝下は硬い骨があるのできつめに縛り、膝上は緩めに巻く。太ももが攣った場合は太ももに巻く。太ももをきつく縛り過ぎると、うっ血して苦しくなるので、きつくならないようにする。攣った方の脚だけに巻くと、もう一方の脚も攣りやすいので、両足に巻く。末端はテープなどを貼り、ほどけないように工夫する。私が使っているのは八光社(03-3779-6520)の膝ベルト(平M2・2本1組〈長2m・幅2.5cm〉)だが、同様な効果があれば類似品で良い。web「自然良能会ゴムバンド」参照のこと。



膝ベルトの巻き方

なお、過去のコラムは次の手順でご覧になれます。ご活用ください。

日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です。

科学委員会

岩殿山研修山行報告

2020年11月29日、科学委員

会の研修山行を開催。講師2名を含め16名の参加の下に大月、猿橋などの河岸段丘の上に発達した町を歩き、地域地質・地形を学び、岩殿山の礫岩、猿橋溶岩流の流れを検証するのが目的だった。大月駅→桂川・高月橋下「象の鼻」→岩殿山→鬼の岩屋→猿橋→猿橋駅の行程とした。

大月駅より国道139号の高月橋へ向かう。途中、岩殿山を望める空地で早速、礫岩層、大月周辺地域の地質や地形について福岡、中野両講師からの説明を受ける。礫岩層の存在は岩殿山がかつて陸に近い海底にあり、プレート運動により隆起して垂直の壁（断層崖）が生じた。高月橋から桂川に下り、「象の鼻」の前で中野講師から

富士山の溶岩流の流れについて地質図を用いて説明を受け、猿橋溶岩流、桂川溶岩流の位置と時代の違いを学ぶ。

国道139号に戻って、畑倉登山口まで歩き、岩殿山登山を開始。礫岩が露出した登山道を登り、最後の鎖場を経て頂上に到着。烽火台（634m）で昼食とする。福岡講師からプリントを参考に富士山の湧水の水質（リンとバナジウム）について解説があった。河川水中のリン濃度は水質汚染の指標である。横浜市は水道水源の相模川のリン濃度が高いことに注目。その原因は水源の富士山の湧水にあることが分かった。富士山の人的汚染による可能性もあるが、富士山の岩石そのもののリン濃度が高いことによると解釈されている。富士山の湧水がバナジウムを含むとして、ペットボトルで販売されている。このバナジウムも富士山の



烽火台での記念撮影

岩石起源である。バナジウムが注目される理由は、血糖値の高いネズミにバナジウムを与えると血糖値が下がるので、糖尿病の予防に効果があるとの考えに基づいているが、富士山麓の居住者に糖尿病が少ないという統計は出ていないとのこと。

荷物を置いたまま見晴台まで降り、河岸段丘の上に成り立つ大月や猿橋の街を眺めながら福岡講師の河岸段丘の成因についての話を聞く。下山途中、ガマの口のような鬼の岩屋の洞窟に立ち寄ってから、日本3奇橋の一つである猿橋まで歩く。桂川の31mの谷に架かる橋脚のない橋で、4層のはね木

で両岸から支えられている。一部の参加者は、橋の前の猿橋名物である木の実せんべいやサンショウ味噌せんべいを購入後、駅まで歩く。

駅構内で無事終了できた研修山行の閉講式を行ない、それぞれの

支部



だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとリポートします。

北海道支部 ほぼ計画どおりに実施した支部山行

新型コロナで明け、新型コロナで暮れた2020年。年が改まったも一向に終息の気配を見せないコロナ禍は、1年前には想像すらできないほど私たちの暮らし、社会のあり様を大きく変える事態になっている。支部の活動も総会や公益事業の講演会、雪崩研修会など多くの人が集まる集会、イベントなどは中止せざるを得なかった。そのような中、登山という行為

帰路についた。

福岡委員、中野会員のおふたりには懇切丁寧な解説をいただき、とても有意義な研修山行となり感謝しております。ありがとうございました。

(伊藤謙二)

そのものは感染の危険性や感染拡大につながる要素は少ないと判断して、北海道支部では登山口までの行き帰りの車中や、宿泊先での感染防止対策には最大限の注意を払いつつ、支部主催の山行はほぼ計画どおり実施してきた。

主な山行をいくつか紹介すると、6月下旬の「岩屋観音く秘境駅小幌駅トレッキング」は江戸時代に円空が自作の仏像を安置した海岸の洞窟とJR室蘭本線にある「日本一の秘境駅」を歩いて巡る、海あり山ありの山行で、小幌駅では超レアな列車とも遭遇した。夏山シ

寄附金および助成金などの受入報告 (令和2年12月31日まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、その他
中山 茂樹 会員	100	日本山岳会運営費用
古野 淳 理事	120	日本山岳会東九州支部運営費用
酒井 敏明 会員	50	若手育成とYouthClubのための寄附
直井 良徳 会員	20	永年会員からのご寄附
越後支部会員他 55名(別紙)	580	高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金
一万円未満1名の氏名省略	-	日本山岳会運営費用

(別紙) 高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金受入報告 (令和2年12月31日まで) (順不同、敬称略)

10万円	酒井広志
5万円	桐生恒治
3万円	齋藤チヨ
2万円	新潟県彩山岳会、宮崎幸司、遠藤家之進正和
1万円	佐久間雅義、森武昭、佐藤レイ子、荒井謙之輔、田邊信行、廣井博行、中原剛、佐藤弘、飯沼和男、梶正彦、尾上昇、八木原国明、坂西徹朗、大山昭一、高木莊輔、白根一、大塚幸美、高辻謙輔、平山善吉
(1万円未満30名の氏名省略)	

ーズンには石狩岳などでの沢登りやテント泊での大雪山・黒岳・旭岳縦走、トムラウシ温泉くトムラウシ山往復なども実施した。7月上旬の黒岳・旭岳縦走は高山植物が最も美しい時期にもかかわらず、縦走中に山中で出会った登山者はわずか4人。日程が平日で、黒岳にある山小屋「黒岳石室」がコロナ感染防止のため緊急時以外は使用禁止だったこと、天候があまり良くなかったことを考慮しても、今までにないことだった。コロナの影響で道外からの登山者が少なかったことも要因かもしれない。

また、去年はかの大島亮吉が「石狩岳より石狩川に沿うて」の文章を残した山行から100年目に当たる記念すべき年ということ、支部山行として「100年目のクワウンナイ川廻行」も企画・実施した(詳細は「山」906号参照)。また、秋に行なわれた南日高の神居岳・中ノ岳、キノコ採りを兼ねた長万部岳の山行なども天候に恵まれ楽しい山行だった、と参加者には好評だった。

晩秋には今年から始まる120周年記念事業「全国山岳古道調査」の下見を兼ねた道南の「殿様街道



高山植物満開の大雪山に行く

トレッキング」を実施。「殿様街道」は江戸時代にお城があった松前と箱館を結んだ古道の一部で、山行では快晴の青空の下、美しい紅葉に彩られた歴史の道をたどることができた。

12月以降の冬山シーズンも、この冬は各地の主な山とも雪はおおむね豊富で山スキー、スノーシューによる支部山行をほぼ計画どおり実施している。道外の山への支部山行も計画してほしいという声も多く、4月以降は津軽海峡の向こうにも、ごく普通に足を延ばせる日が来ることを願わずにはいられない。

(支部長・藤木俊三)

岐阜支部

コロナ禍の下、前向きに活動した1年

コロナ禍で大きな混乱を招いた令和2年度だが、岐阜支部では可能な限りの活動を行ってきた。岐阜県には令和2年度4月7日の緊急事態宣言において、13都府県の特定警戒都道府県として位置付けられ、5月14日に解除がなされた。本期間は慎重な行動を取ることにとし、年次総会は中止・書面決議とし、宣言の解除までは支部の山行はすべて中止とした。先の見えない中、慣れない運営を余儀なくされ、この初動対応の判断がコロナ禍において最も難しかった点だと感じている。

山行の是非に関して会員に確認したところ、自粛するよりは前向きに動いた方がよいという意見が多かったため、政府指針の定められた範囲内で可能な限りの活動を行なう判断を取った。また、5月中も各会員にはメールを通じて、岐阜県内での個人山行を奨励した。活動を続ける判断に至った経緯は、以下が主だった理由となる。

●岐阜支部が前向きに活動してい



大混雑だった薬師峠のテントサイト

るといふ旗印を示し、感染症禍の中で会員に勇気を与えること

●会員が会の活動から受益できる機会を失わないこと。

●会員の体力・気力の低下を防ぐこと。

●平時に戻ったとき、岐阜支部の活動が速やかに再開できること
岐阜支部では山岳4団体や医療機関からのコロナ対策指針に基づき、計画書内に対策方針を記載し、山行に参加する会員に注意を呼び掛けた。山行実施日と前後の体調チェック・移動の車中での換気・登山開始後30分休憩での体調チェックなどを徹底し、各警察署に登山届を提出する際には我々の方針を説明した。

活動履歴に関してだが、解除後は速やかに会の活動を再開させている。まずは5月より「小津権現山の森作り」を開始し、6月には白山、7月には笠ヶ岳から弓折岳の縦走や福地山山行を行なっている。7月末にはGOTTOトラベル開始など、政府からの外出に対する規制の緩和もなされ、月に3回の山行を行なう岐阜支部の活動もほぼ通常どおりに戻った。

この混乱の中で、いくつかの印象に残る山行があった。7月の笠ヶ岳縦走登山は登山者が少なく、夏の北アルプスがほぼ貸切りになったのは珍しいことだった。また、9月のシルバークの薬師峠―雲ノ平山行は、通常運営している薬師峠のテントサイトが大混雑していたことに驚かされ、対照的に予約制であった雲ノ平は広々と静かなテント泊を楽しめたことが印象に残っている。2ヶ月の間で人々の行動や意識に大きな変化が見られ、人の移動に伴い、社会に活力がみなぎってきていることが山行を通じて感じ取れた。

12月の忘年会を小規模ながらも行なった後、1月に入り2回目の緊急事態宣言が発令された。1月

の新春懇談会は中止、また、山行も2月までは県外山行は中止とされている。そのような中でも、元気な会員たちは県内で個人山行を続けており、人数を絞った上で山岳講演会・写真展を2月、3月に実施の予定だ。新入会員も令和2年度で5名入会届をいただいた（世の中での楽しみが減った中、会員の勧誘は行ないやすくなった、と感

「会員優待サービス」変更のお知らせへ会員サービスWG

＊【東北北部】湯の台温泉・鳥海山荘／日帰り入浴料大人520円（旧510円）↓400円

＊【東北南部】泡の湯温泉・三好荘／廃業のため削除

＊【上信越】西上州・やまびこ荘／ヴィラせせらぎ／コテージまほーば／コロナ禍で現在休業中のため削除

＊妙高・黒沢池ヒュッテ／宿泊料金の10%引き↓500円引き

＊【北アルプス】湯俣温泉・晴嵐荘／宿泊料金10%引き↓500円引き。入浴料は宿泊代金に含まれている。

＊【御嶽山】旅館御岳／廃業のため削除

じている。

支部としての活動判断が難しい1年だったが、暗い世相の中、前向きな活動を行なったことは会員のモチベーションを上げるのに大きく貢献したと考えている。今後、可能な限り前向きに活動する方針を維持したいと思う。

（東明 裕）

広島支部

登山道整備と支部忘年登山

前年度3月の支部アルパインクラブユースの個人山行で、大山北壁における滑落事故が発生した。

最悪の事態は免れたものの、これの原因究明および再発防止の対策に追われ、今年度期初からクラブ例会山行にも制限を加えざるを得なかった。これについては、ユースクラブへのサポートおよびメンバー育成態勢の再構築を行なうて対応することで落ち着きを見ることのできた。ただ、この間、新型コロナウイルス感染症禍により4月から支部活動は自粛をやむなくされた。例年実施していた四国支部、山陰支部との3支部交流会をはじめ、京都・滋賀支部および北九州支部との交流会も順延、中止を余儀なくされ、5月に予定していた支部総会も書面での審議および議決を行なわざるを得なかった。その後、緊急事態宣言解除を受けて、7月、ウィズコロナのガイドラインを遵守することでクラブ例会山行を中心に活動を再開したが、このガイドラインに沿った活動は大きく制約を受けるものになったことは否めない。

特に、支部の公益事業の柱としていた霧ヶ谷湿原再生事業は4月、6月の計画が中止を余儀なくされ、新設の登山振興委員会で再開をめぐらんだ親子登山教室も実施の見



臥龍山山頂手前の登山道整備

通しは立っていない。例年実施してきた中央分水嶺登山道整備も台風の影響のため中止となり、ようやく11月28日、広島県でやや落ち着きを見せたコロナ禍の隙間で、本年度最後で唯一の登山道整備活動を実施することができた。

実施地区は北広島町の臥龍山から掛頭山に向けた縦走路で、八幡高原霧ヶ谷湿原入り口から縦走路中間点の猿木峠までと、峠から2方向（臥龍山・掛頭山）の3ルートに班分けし、参加者36名が臥龍山麓のかりお茶屋前に集合した。しかし、かなりの雨のため雨雲予報を見て、作業開始を30分遅らせて霧ヶ谷湿原入り口から3班がそれぞれの作業区域に出発した。A班（猿木峠・掛頭山方向）草刈り機2名、笹払い11名、B班（猿木峠・臥龍山方向）草刈り機2名、笹払い10名、C班（霧ヶ谷湿原入り口・猿木峠）草刈り機は内藤・八幡湿原自然再生協議会整備部長ほか1名、笹払い9名が従事した。

作業に入るとお昼前から粉雪のような霧雨が降ってきて、しばらくすると霰になり、最後には雪になった。風も強く、一時ヒノキ林で雨宿りならぬ霰宿りをしながら

の本当に寒い(手が痺れるくらい)作業になったが、各班ともに作業を予定どおり終了し、皆さん元気に出発地のかりお茶屋に帰ってきた。来年に向けて整備の終わったこのルートは、大変歩きやすく、登山を楽しむ皆様に喜ばれるものとなった。16時に前垣・公益事業部長の閉会の挨拶で無事に散会することができた。

翌29日は、八幡高原の斎山荘を起点に、北広島町才乙の天狗石山(1192m)に向けて恒例の忘年

登山を実施したが、ウィズコロナを考慮して、参加者6名のやや寂しいものとなった。

出発時には11月とは思えない冷え込みの中、全員元氣よく急登を登ったが、頂上付近は前日の雪が残っており、曇りがちの天気で頂上からの展望は望めなかった。山頂は到着直後から雪混じりの小雨になり、下山はぬかるんだ急坂を避けてエスケープルトの林道を下り、予定どおり下山することができた。

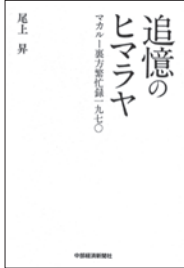
(近藤道明)



図書紹介

追憶のヒマラヤ

尾上昇著



2020年12月
中部経済新聞社
四六判 336頁
1600円+税

さんの回想録である。サブタイトルに「マカルー裏方繁忙録一九七〇」とあるように、第一部の「マカルー一九七〇」が過半を占めており、第二部「私と山、若き冒険の日々と山岳会」の2部構成となっている。

今から50年前の1970(昭和45)年、JAC東海支部登山隊は世

界第5位の高峰、マカルー(8463m)の南東稜からの初登攀に成功した。1955年に初登頂したフランス隊に次ぐ第2登ではあるが、ヒマラヤにバリエーション時代の到来を告げる、画期的な登山であった。その評価や位置付けについては、著者が本会報の昨年6月号(901号)に書かれているので参照されたい。

今から半世紀も前のヒマラヤ高峰登山は一大プロジェクトで、すべてが手探りの状態だった。「日本を出発できれば、登山は半分成功したようなもの」と言われるほど、膨大な準備が必要だった。原真登攀隊長に涉外係を命じられた著者が、登山許可取得をはじめ物資・資金の調達など八面六臂で活躍する様子が詳しく綴られている。とりわけ、同年にエベレスト登山が進捗中の、JAC本部との相克に悩まされたことなど、舞台裏でのエピソードが目を引く。

羽田空港を飛び立った機中で、「私は」本当に、ヒマラヤ行きの飛行機に乗っているんだ」「今まさにマカルー登山が実現したんだ」と、一人感慨に浸った。臥薪嘗胆、苦節八年である。裏方として準備

に苦労した思いが、頭のなかをぐるぐる回る。」と述懐しているが、まさに心底から出た感慨であろう。

登頂に至るクライマックスは「頂上を目指すアタック隊 満身創痍の果てに」の章に詳しく、読む者にも緊張感を与え、一気に読ませる。乾坤一擲、ラストチャンスに賭けてアタックに成功したわけだが、かくして著者が青春の全てを懸けた、「裏方」の苦勞が報われたのである。

*

原真というカリスマ的なリーダーに率いられた「軍隊のような」(あるシエルバの印象)マカルー登山隊とは対照的なのが、第二部に登場するグリーンランド遠征隊(1966年)である。同じクラブに所属する気心の知れた山仲間たちだけで計画し、実行した遠征だけに自由で、意欲的に行動している姿が、伸びやかな筆致で綴られている。著者と同期で、同じく大雪山岳部で活動していた筆者としても、ちよつぱり羨ましく感じられたことであつた。

最後の2章「混沌と新生の東海支部」「日本最古の『日本山岳会』」

は、JAC会員にとって、来し方を振り返る意味で参考になるう。

著者は本書を「遺言のつもりでまとめてやろうと思っていた」と記しているが、登山界だけでなく実業界でも幅広く活躍してきた著者だけに、要所要所で示唆に富んだ「遺言」となっている。

(節田重節)

デス・ゾーン 栗城史多のエベレスト劇場

河野啓著



2020年11月
集英社刊 344頁
四六判 1600円＋税

栗城史多、「カメラを手に、山を劇場に変える、新時代の登山家」。テクノロジーの革新が一流の技術を持たない登山家と観客を繋げ、メディアは彼をタレントのように描いてきた。彼はなぜこれほどまでにメディアの注目を集めたのか、彼に拍手を送り、あるいは罵声を浴びせたのか。本書は伝記でも英雄伝でもない、TVディレクターがかつて栗城のエベレスト登山の

撮影に関わった著者が、彼の死を多角的に検証し、愚直に実像を描き出し、「栗城史多を死に追いやったもの」を問い掛けている。

まずは栗城の生い立ちから始まる。高校卒業後は吉本興業グループのエンターティナー養成所に入學し、北海道に戻り大学に入學。大学山岳部に入部したところから「エベレスト劇場」はスタートする。札幌郊外の中山峠から小樽まで縦走したくらいの経験で、マッキンリーに奇跡的にも登頂を果たし、その後、順調に各大陸の最高峰を踏破する。

「起業家がたまたま山に登った、山よりビジネスの才能があった」と周囲は栗城を評する。彼のキャッチフレーズ、「単独無酸素での7大陸最高峰登頂」。スポンサーから金を引き出すため、メディアや講演会の聴衆にアピールするため、必要だったのかもしれない。しかし、そもそも酸素ボンベが必要なのは8000m峰のみ、7大陸最高峰の内ではエベレストだけではないのか？ シェルパの張ったザイルを使い、撮影隊やポーターを伴う登山が「単独」と言えるのか？

営業マン・プロデューサー・出演者、何役も兼ねた自分の登山スタイルを、栗城は「総合格闘技」と表現する。著者は自問する「この人を登山家として描いていいのだろうか。彼は何者なのか？」「夢の共有」という社会貢献の匂いまで発散させる栗城に、著者の取材モードは「応援する」から「観察する」にシフトし、敗退を繰り返す彼の「演出」から「ネット市民」も離れていく。凍傷で指を失い、資金も尽き、体力も気力も衰え「否定の壁」に取り囲まれた。

栗城は8回目の最後のエベレスト挑戦で、BCを出発する朝、突如、登れるはずのない最難関の南西壁にルート変更する。著者は自問する、「栗城さんを死に追いやったのは私かもしれない」。栗城には、山を劇場に変える力はなくなくなっている。人に夢を語りながら、自身は死を望んでいた。著者は「デス・ゾーン」の所在を探り当てる、本当の「デス・ゾーン」は栗城自身の中にあつたのだ、結局はこういつた決着をつけるしかなかったのだと。それが彼のサービス精神だったのかもしれない。

(木根康行)

雪崩事故事例集

出川あずさ著



2021年1月
山と溪谷社刊 144頁
B5判 2700円＋税

本書は日本における30年間の雪崩事故を丹念に調査してまとめ上げられたものだ。著者の出川さんは欧米の雪崩に関する知見や遭遇しないための教育プログラムを日本に紹介するとともに、日本雪崩ネットワークを設立されて多くの学ぶ機会を提供された方だ。毎年冬山シーズン前に、アバランチナイトと称して全国で開催されている学びの場では、雪崩の基礎知識や前年の雪崩事故を丹念に調査検証された報告など実に学ぶことが多く、毎年参加されている会員の方も多いと思う。この本はいわば、あの会場で提供されている質の高い情報がまとめられたものと言ってよいだろう。

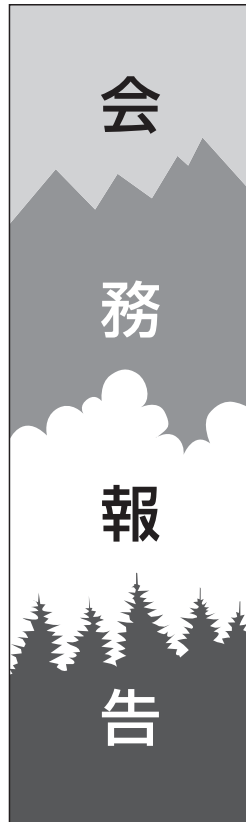
山を登ることは、常に学び続け、自らを厳しく律して鍛え、良い登る姿勢を身に付ける。心技体の三位一体でなすものと皆さんもお考

えと思う。ぜひ本書を手にとつていただき、多くの学びをなしていただきたいと思う。そして、お読みになるにあつては、ぜひ目次と本書の使い方を読んでいただくことをお勧めする。どこから読んでも有益な情報ばかりだが、一つ一つの事例に気象・地形・行動・救助と雪崩事故から学ぶことのできる様々な知見が体系的に記述されていることと、先行の雪崩に関する様々な著作から、重要な基礎知識を簡潔に引用していることが分かる。著者が意図されているかどうかは分からないが、本書は膨大な情報を整理した記録として読むことができる。

てノートを作成する。仲間と輪読会を催す。韋編三絶大いに活用することが著者の労に報いることになると思う。

の登山経験を持つ谷山宏典氏（日本山岳会会員）が編集に携わられている。一級の登山者の視点も盛り込まれた内容なので、山の滑走者のみならず、山の登攀者もぜひ手に取って学んでいただきたいと思う。

（東 秀訓）



令和2年度第9回（1月度）理事会 議事録

日時 令和3年1月13日（水）19時00分～21時00分

場所 集会所およびオンライン

（Zoom）

【出席者】古野会長、野澤・山本・坂井各副会長、永田・萩原・古川各常務理事、清登・清水・飯田・柏・近藤・各理事、黒川・石川監事

【欠席者】安井理事

【オブザーバー】節田会報編集人、野口東京多摩支部長

【協議事項】

1・支部連絡会議について（永田）
会議室からオンラインで行なうことが決まった。議題について確認した。

【報告事項】

- 1・東京多摩支部の遭難事故について報告があった。（古野、野口）
- 2・正会員5名、準会員3名の入会について承認した。（古野）
- 3・個人より4名、1支部から寄附の受入れがあったことが報告された。（古川）
- 4・会報1月号に、会長の挨拶を

載せることが報告された。（古野）

（飯田）

6・山研について家賃支援給付金を受け入れられたことが報告された。（野澤）

（野澤）

7・広報委員会の準備委員会を立ち上げ、委員会立ち上げ準備とともに、日々の業務に当たることが報告された。（永田）

8・会報1月号に「新聞記事の配信・配付について」を掲載することが報告された。（永田）

9・会報1月号に「会員名簿発行の中間報告」を掲載することが報告された。（永田）

10・グッズの販売について、現状の売れ行きなどが報告された。（永田）

11・『YOUTH 山』が発行される旨、報告がされた。（永田）

12・会報「山」1月号について報告がされた。（節田）

ルーム誌 1月

6日 常務理事会

7日 二火会

8日 図書委員会

13日 理事会
18日 総務委員会
20日 会報編集委員会
25日 資料映像委員会
28日 公益法人運営委員会
1月来室者 38名

会員異動

物故

小堀一政 (8345) 20・12・3
山上皓一郎 (9815) 20・12・15
竹内タミ子 (15828) 21・1・10

日程変更のお知らせ

2月13日～14日に実施を予定していた「第10回登山教室指導者養成講習会」ですが、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期し、**4月3日(土)～4日(日)**に変更いたします。実施内容は会報昨年11月号でお知らせしたとおり、変更はありません。改めての申込み締切は3月15日です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

〈支部事業委員会委員長 宮崎 紘一〉

退会

川瀬幹夫 (7656)
藤本敏行 (8320)
田島静子 (9996) 東海
掛江正通 (13457)

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

増本さやか (14568)
大段勝幸 (14931) 広島
谷藤康子 (16540) 岩手
松本 武 (A0053) 東京多摩

◆花の山旅 宮崎・高千穂峰と双石山

山行委員会

昨年、全国支部懇談会で訪ねる予定だった双石山とミヤマキリシマ咲く高千穂峰を、宮崎支部の皆さんと一緒に歩きます。航空券の手配など詳細は申込み者に連絡。

日程 5月29日(土)～5月31日(月)

集合 29日(土)夕刻に宮崎市内

行程

30日 宮崎市内↓高千穂河原→高千穂峰(往復)↓宮崎市内(泊) 31日 双石山登山口→双石山→九平登山口↓宮崎市内(解散)

歩程

1日目なし、2日目5時間、

費用 3日目5時間
1万円(域内移動車両費用・保険料など) *宮崎までの交通費、宮崎市内宿泊費、食事は各自精算。

定員 15名

申込み 4月25日(日)まで 長島泰博へ

☎ 090-5554-8345

✉ sanko@jac.or.jp

◆会報1月号(908号)でお知らせしたアルパインスケッチクラブ主催の「第30回山好きの山の絵展」は、コロナ禍のため開催中止となりましたのでお知らせします。

◆編集後記◆

●大河ドラマ『麒麟がくる』が終わったが、近年、「山城歩き」がブームです。伊豆での山歩きの途次、箱根南方の山中城址を訪ねました。秀吉の小田原攻めに對抗するため後北条氏が築城したもので、建物はないが縄張りが見事に残っており、歩いて見て回る面白さは、登山に通じるものがありました。

●山中城の見所は、なんと見ても見事に残る畝堀や障子堀と呼ばれる空堀です。二の丸や岱崎出丸に立つて、秀吉軍が攻めてきた西の方、富士山、三島方面を見はるかすと、城を守る北条勢の甲冑が触れ合う音や軍馬の嘶き、法螺貝の響きなどが聞こえてくるようでした。次は美濃の岩村城か近江の小谷城を攻めてみようと思っています。いざ出陣！(節田重節)

日本山岳会会報 山 909号

2021年(令和3年)2月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社